

日本映画衛星放送株式会社 第36番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成 25 年 11 月 12 日 (火) 16 時～17 時
2. 開催場所 : 東京都港区赤坂 2-17-22 赤坂ツインタワー東館 15F
日本映画衛星放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席 : 委員総数 8 名 / 出席委員数 8 名
出席委員 (順不同、敬称略) : 菊地 実・川本 三郎・坂井 保之・鈴木 嘉一・
曾根 和子・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正
放送事業者側出席者 : 常務取締役 酒井 彰
取締役 佐藤 信彦
編成制作局長 宮川 朋之
編成制作部長 澤 尚志
編成制作部 秋永 全徳
番審担当 堤 靖芳
清水 明(記)

4. 議題 (1) 審議事項

時代劇専門チャンネル・オリジナル時代劇「鬼平外伝 老盗流転」について。

(2) 報告事項

日本映画専門チャンネル「角川映画劇場」放送開始について。

5. 議題 (1) 概要

地上波で時代劇ドラマ製作が減る中、時代劇専門チャンネルでは、新しい時代劇を視聴者に提供したいと考え、オリジナル時代劇製作を続けてきた。そしてこの度、「鬼平外伝」シリーズ最新作として、「鬼平外伝 老盗流転」を完成させた。2013年9月にBSスカパー！で先行放送した後、2014年1月に時代劇専門チャンネルにて本放送を迎える。

については、この作品が、①現在の時代劇専門チャンネルのラインナップの中で、視聴契約のきっかけとなる商品となり得るか、お聞きしたい。②従来のシリーズ作品と監督が変更になり、作品のテイストも変わったが、忌憚のないご評価をお伺いしたい。③今後のシリーズ展開、或いはオリジナル時代劇の全般についてご意見をお聞かせ頂きたい。と考え、ご審議をお願いした。

承ったご意見は、今後のオリジナル時代劇の企画・製作・編成の参考とさせて頂く。

6. 議題（1）審議内容

- ・オリジナルコンテンツ製作には勿論賛成だ。ライバルは地上波。今回は番組がより地上波的になった印象を受けた。視聴契約のきっかけとなり得る作品だと思う。ただ、新規顧客開拓には、個別の作品だけではなく、チャンネルの総合力が必要だ。
- ・大傑作。役者の芝居やセットも良い。それ以上に映像自体が素晴らしい。陰影が実に上手く映し出され、あらゆるショットが全部計算し尽くされている。すごい演出で、感服した。劇場の大画面で観たい。
- ・緩急が考え抜かれ、映像の職人技が素晴らしい。人物の動きや間合いも見事。主演の男優二人も良いが、ヒロインの若村さんも良い。シリーズ作品を並べてラインナップすることが大事で、顧客に対する強いアピールになる。着実にドラマづくりを続けていくことが、チャンネルの力になる。余裕があれば、若い人向けの作品もあっても良い。
- ・地上波に見るべき番組は無いが、いきなり長編時代劇を見るかという点、それは敷居が高い。一そんな人に、このオリジナル時代劇はとても見やすいと思う。既加入者を繋ぎ止める他、新規の開拓に繋がる。「鬼平外伝」以外のオリジナルドラマも製作して欲しい。
- ・良く出来た本格的時代劇で、映画と比べて遜色ない。色調が見事だし、衣裳も美しい。ラストシーンも意外な表現が嬉しく、作品として素晴らしかった。ただ、映像商品としては、重く、暗く、長い。食わず嫌いの人にも注目される作品を考えるべきだ。
- ・評価出来ない。娯楽作品というより純文学的だ。エンターテインメント性が足りない。
- ・「鬼平外伝」シリーズは、鬼平こと長谷川平蔵の存在を感じながら、鬼平に繋がる世界観が出来ているのが良い。「老盗流転」は、キャスティングも成功していて良かった。
- ・映像的に必ずしも効果的でない部分もあるが、ロケシーンなどが良く、感動した。ただ、商品としては地味過ぎるかもしれない。一般視聴者には通じにくいだろう。

<事業者回答>

- ・オリジナル時代劇は、時代劇ファンだけを喜ばせようとしている訳ではない。有料放送として看板番組を作りたいと考え、大人の観賞に耐えられるドラマを作ろうとした。ただ、この「老盗流転」という1つのドラマ、「鬼平外伝」という1つのシリーズだけで、全ての視聴者にアピールするのは難しいので、今後は様々なドラマを製作していきたい。エンターテインメント性豊かな作品も必要だと思う。新たな企画も模索中である。

7. 議題（2）報告事項

日本映画専門チャンネルでは、2013年11月より角川文庫65周年を記念する形で、BSフジとの共同企画として「角川映画劇場」を開始した。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、2014年1月14日開催。

(以上)